

# 松 明 は 新 し い 世 代 に

同窓会会長 有田 和男 (31 回)

\*はじめに・・・

新春を迎えて、明るく胸躍る思いで前に進もうとしますが、毎日のように伝えられる明日の见えない内外の情勢が、私に不安と緊張をもたらし、胸が締めつけられる思いに駆られる苦難の年と思えてなりません。

何か打開策をと自分自身の思考の感性を変えてみるのですが、これと思ひ浮かぶのは、この状況を自分を磨き高める絶好のチャンスと捉え、陽の光を求めて上を向いて、空元気で胸を張ってこの一年を頑張り抜き、一陽来復の春を自力で掴みたいものと願うばかりです。

若い時に紐解いた何かの書物の中に、「男の修業」と言う文がありました。毎年の慣習として新しい手帳の片隅に写し代えて、今なお辛い時の心の励みにしてきている言葉があります。

苦しいこともあるだろう。

云いたいこともあるだろう。

不満なこともあるだろう。

腹のたつこともあるだろう。

泣きたいこともあるだろう。

これらをじっとこらえてゆくのが

男の修業である。

この一年も「男の修業」の言葉をぐっと噛みしめて、猛烈社員時代の頑張りを取り戻すのだと、弱さを持つ自分に言い聞かせています。

\*母校の創立95周年を迎えて・・・

母校は今年で創立95周年の記念の年を迎えます。学院沿革略史によれば、大正6年2月6日に私立甲陽中学設立の認可を得て、同年3月に甲子園の旧校舎が一部竣工し、4月に一学年200名の授業が始まったとあります。大正9年3月に財団法人辰馬学院甲陽中学設立の認可が下り、大正11年3月に第一回卒業式が挙行され、卒業生133名が学び舎から巣立ったと記されています。

同窓会の歴史について、当初の設立の時期と経緯についての資料は見つかっていません。ただ、昭和38年に第1回卒業生が中心となり、甲陽学院同窓会の基盤を固められ、同卒業生から初代会長が選出されました。それまで歴代の学校長が同窓会長を兼務されていました。

そして会報「甲陽だより」の第1号が発刊されました。会報は本号で85号となります。昭和38年以降の同窓会の

歴史と活動は、全て会報に掲載されています。これにより先輩方のご英断とご苦勞に感謝すると共に、皆様方と同窓会の存在意義の再確認などを行いたいと考えています。よって、この会報の全号を「同窓会ホームページ」に転載し、これを永久保存する困難な作業をIT委員会で進めています。これにより「過去に学び、現在を考え、未来を思う。」の格言が現実となる事を願っています。

\*記念事業について・・・

創立95周年の記念事業の一環として、「奨学金ファンド」の新たな呼掛けに、「同窓生全員に、一人・一口・一万円の拠金」の一灯を掲げて、同窓生の皆様全員にお願いすることを、先の理事会でご承認を得ました。この運動の展開は24年度からとなり、同制度の趣旨と経緯を改めてご説明を行い、皆様方のご理解とご協力をお願いしたく考えています。

\*時に思うこと・・・

故・ケネディ大統領の演説の中に「松明は新しい世代に引き継がれた」とあったのを記憶しています。同窓会も嬉しいことに、若い世代の活発な参加と活躍が現実のものとなってきました。

世の中は、明日の见えない一層困難な時代に突入したように思えます。この潮流の中で、これからの同窓会を考えると、企業経営と同じく「新しい風」を呼び込まなければならないと考えます。

ドラッカー博士の「マネジメント」に「人こそ最大の資産」と云われています。吾々の同窓会は母校が育んだ人材が豊富です。同窓会の今後の歩みは、若い世代に期待すること大なるものがあります。

甲  
陽  
だ  
よ  
り

発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 有田和男

印刷所

株式会社 小西印刷所

西宮市今津西浜町2番60号

TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・金 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail:

fvqp1650@mb.infoweb.ne.jp

同窓会ホームページ

[http://www.koyogakuin-](http://www.koyogakuin-oba.jp)

[oba.jp](http://www.koyogakuin-oba.jp)



白鹿クラシックス  
Hakushika Classics

酒宮市鞍掛町(札幌駅・函館線交差点)  
■定休日/火曜日

レストラン&カフェ

AM11:00~PM10:00

(ラストオーダー PM9:00)

明治時代の酒蔵を  
シック&カジュアルな和空間に。

0798-35-0001

ミュージアムショップ

AM10:00~PM7:00

歳元ならではの、  
お酒にまつわるアイテムが大充実。

0798-35-0286

酒ミュージアム

白鹿記念酒造博物館

AM10:00~PM5:00

(入館は4時30分まで)

日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝へる。

0798-33-0008

# 会 務 報 告

平成23年11月30日に行われました同窓会理事会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

## 1 会報編集委員会

第84号を平成23年7月11日付で発行。3月11日の東日本大震災をうけて、有田会長の巻頭言は「東日本大震災に思う」、また東北大学大学院医学研究科の長谷川隆文氏(69回)から「東日本大震災の医療現場」と題するドキュメントを掲載しました。

## 2 会員総会運営委員会

平成23年8月28日(日)の午前11時から午後3時まで、ノボテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙行しました。

第1部は1階「鳴尾の間」にて式典と講演会。今回はゲストスピーカーとして東京大学大学院医学研究科教授の岩坪威氏(59回)をお招きし、「アルツハイマー病・目前に迫った予防と治療」と題して1時間余りのご講演をいただきました。岩坪氏は、宝塚市生まれ、上甲子園小学校から昭和47年に甲陽学院中学校へ入学され、甲陽学院高校卒業後の昭和53年に東京大学理科三類に進学されました。東京大学医学部卒業後は脳神経医学を専攻され、アルツハイマー病研究の功績から「メトラライフ医学研究賞」「ヘンリー・ウィズニエフスキ賞」など海外の権威ある賞を受賞されています。そうした岩坪教授から世界最先端のアルツハイマー病の予防と治療研究の現況を、スライドを使ってわかりやすく説明していただきました。

第2部は、会場を2階「甲陽の間」に移して懇親会。今年は「東日本再生へエールを送ろう」という趣旨を掲げ、あしなが育英会を通じて同窓会からの義援金の贈呈式、被災地仙台から長谷川隆文東北大学大学院医学系研究科助教・病棟長による現地からの報告、東北から阪神地区に避難中の山本亜希子さんによる地唄舞、山本亜希子さんと同じく避難中の三浦由紀子さんへ評論家河内厚郎氏(52回)からインタビューなど盛りだくさんの内容でした。

当日の参加者は約240名でした。

## 3 東日本再生へ義援金贈呈

同窓会から被災地の子どもたちへあしなが育英会を通じて義援金を贈呈しました。

平成23年4月の役員総会での決定にしたがい、同窓会の一般会計予備費から100万円、さらに夏の会員総会の会費増額分から20万円の合計120万円をあしなが育英会に寄贈いたしました。被災した子どもたちのための東北レインボーハウスの建設資金にあてられます。

## 4 甲陽ファンド管理委員会

本格的にファンド委員会が発足してから7年目、在校生への支給を始めてから6年目を迎えます。

募金活動は平成17年度から開始し、皆様のご協力によりこれまで6年半で約5150万円の醸金が集まりました。もっとも平成22年度は約310万円、平成23年度前期は約200万円となっており、やや募金活動が下火になってきていることが懸念されます。

在校生への給付実績は、平成18年度6名、平成19年度6名、平成20年度7名、平成21年度9名、平成22年度9名、平成23年度8名で、金額は1名につき年間20万円です。

現在のファンド残高は平成23年9月末で約4250万円となっています。

今後の方向性ですが、平成24年度母校創立95周年の記念事業の一環として、同窓生全員に呼びかけて1人・1口・1万円で、1口以上の醸金を呼びかける活動を展開したいと考えています。

また在校生への給付については、経済的事情以外に、成績やクラブ活動で優秀な成果をあげた生徒を対象とした「同窓会賞」のようなものも考えてはどうかと検討中です。

## 5 IT委員会

同窓会ホームページについては、リニューアルをしてオープンする運びとなりました。そのなかで、過去の「甲陽だより」をPDF化して全号掲載していく予定です。

次に、IT委員会では「同窓会名簿をCDROM化したらどのようなメリット、デメリットがあるか」について検証し、名簿のコストダウンやセキュリティの強化ができるかについて展望を探っております。具体的にどのようなリスクがあるかなどを明確にする実験を実施した上で、常務理事会へ報告する所存です。

## 6 臨時の委員会の発足

先の理事会のご承認を得まして、会則に定める臨時の委員会として、「創立95周年記念事業準備委員会」と「会則検討委員会」を発足させました。

この委員会は、新年度に引き継がれます。特に「会則検討委員会」は十分な検討期間をかけて、新しい時代に即応できるよう慎重に検討を行いたい。

※同窓会費の終身会費納付額設定表は右の頁に掲載しております。

# 甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

平成23年 6 月 1 日以降12月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成23年 5 月31日以前に醸金された方は73号～84号に掲載しております。)

|            |           |           |           |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 19回 石井 賢治  | 38回 三木 則夫 | 54回 植田 和孝 | 70回 吉村 克也 |
| 19回 山崎 昇   | 39回 加輪上敏彦 | 56回 大野 順弘 | 73回 古寺 淳二 |
| 20回 沖野 秀雄  | 40回 高橋 恒介 | 57回 白尾 誠二 | 73回 若宮 秀行 |
| 24回 織部 成一  | 41回 徳永 隆史 | 57回 新屋 久幸 | 74回 徳岡 俊治 |
| 25回 高田 典雪  | 41回 橋本 久  | 57回 中村 卓司 | 75回 木村 尚史 |
| 27回 光野 昭   | 42回 梅村 幸彦 | 58回 奥村明之進 | 76回 山下 寿也 |
| 31回 鈴木 登   | 42回 浜崎 延雄 | 58回 進藤 秀郎 | 78回 中河原修平 |
| 31回 高尾 正敏  | 44回 木村 正昭 | 59回 島本 佳憲 | 79回 岡本 知己 |
| 31回 富士川真二郎 | 45回 小林 智夫 | 60回 阿多 博文 | 79回 原田 裕康 |
| 31回 八木 頼夫  | 46回 近藤 宏  | 60回 中山 裕雄 | 79回 森畑 安登 |
| 33回 大幡 嘉春  | 46回 山本 一清 | 62回 長宅 芳男 | 81回 金光 一瑛 |
| 33回 若田雄太郎  | 47回 今井 洋一 | 63回 春木 満  | 81回 山脇 敬博 |
| 34回 鈴木 博信  | 49回 村田 宣夫 | 64回 岡原 正周 | 82回 山本 祐己 |
| 35回 尾山 啓二  | 51回 内田 邦彦 | 66回 鍵本 聡  | 90回 奥古光崇広 |
| 36回 鮎貝 盛和  | 51回 博多 一恭 | 66回 佐藤 洋一 | 91回 坂本 裕章 |
| 37回 眞島庸之助  | 53回 山崎 勝弘 | 67回 重村 誠志 | 工専1 笠原 弘志 |
| 38回 江崎健一郎  | 54回 中野 茂  | 68回 森 健   | 42回生 有志一同 |
| 38回 菅谷 定彦  | 54回 前田 一  | 70回 山崎 浩司 | 72回生 有志一同 |

| 回生 | 醸金者数 | 醸金者率    |
|----|------|---------|
| 4  | 1    | (50.0%) |
| 11 | 1    | (8.3%)  |
| 13 | 3    | (25.0%) |
| 15 | 1    | (5.3%)  |
| 16 | 1    | (5.9%)  |
| 17 | 3    | (12.0%) |
| 18 | 10   | (32.3%) |
| 19 | 5    | (11.4%) |
| 20 | 12   | (16.2%) |
| 21 | 5    | (8.3%)  |
| 22 | 7    | (10.6%) |
| 23 | 9    | (10.0%) |
| 24 | 9    | (11.3%) |
| 25 | 11   | (10.9%) |
| 26 | 0    | (0.0%)  |
| 27 | 22   | (24.4%) |
| 28 | 6    | (14.6%) |
| 29 | 5    | (18.5%) |
| 30 | 2    | (9.1%)  |
| 31 | 34   | (41.5%) |
| 32 | 6    | (7.6%)  |
| 33 | 33   | (29.7%) |

| 回生 | 醸金者数 | 醸金者率    |
|----|------|---------|
| 34 | 41   | (58.6%) |
| 35 | 50   | (47.6%) |
| 36 | 47   | (52.8%) |
| 37 | 57   | (47.9%) |
| 38 | 57   | (43.8%) |
| 39 | 71   | (52.2%) |
| 40 | 75   | (54.3%) |
| 41 | 17   | (13.4%) |
| 42 | 20   | (16.1%) |
| 43 | 16   | (11.9%) |
| 44 | 9    | (6.3%)  |
| 45 | 30   | (20.0%) |
| 46 | 17   | (9.9%)  |
| 47 | 18   | (10.4%) |
| 48 | 9    | (5.2%)  |
| 49 | 21   | (11.5%) |
| 50 | 10   | (5.9%)  |
| 51 | 14   | (7.8%)  |
| 52 | 13   | (7.3%)  |
| 53 | 9    | (5.3%)  |
| 54 | 24   | (13.0%) |
| 55 | 18   | (8.9%)  |

| 回生 | 醸金者数 | 醸金者率    |
|----|------|---------|
| 56 | 24   | (13.3%) |
| 57 | 28   | (13.4%) |
| 58 | 26   | (14.3%) |
| 59 | 20   | (10.1%) |
| 60 | 23   | (13.0%) |
| 61 | 10   | (5.5%)  |
| 62 | 26   | (12.6%) |
| 63 | 11   | (7.5%)  |
| 64 | 14   | (8.9%)  |
| 65 | 10   | (6.3%)  |
| 66 | 7    | (4.6%)  |
| 67 | 10   | (6.3%)  |
| 68 | 5    | (3.1%)  |
| 69 | 8    | (4.9%)  |
| 70 | 7    | (4.4%)  |
| 71 | 3    | (1.9%)  |
| 72 | 22   | (11.8%) |
| 73 | 3    | (1.8%)  |
| 74 | 10   | (7.1%)  |
| 75 | 13   | (8.3%)  |
| 76 | 6    | (3.9%)  |
| 77 | 3    | (1.9%)  |

| 回生  | 醸金者数 | 醸金者率    |
|-----|------|---------|
| 78  | 5    | (3.0%)  |
| 79  | 7    | (4.2%)  |
| 80  | 2    | (1.2%)  |
| 81  | 3    | (1.8%)  |
| 82  | 5    | (2.8%)  |
| 83  | 9    | (5.0%)  |
| 84  | 1    | (0.5%)  |
| 85  | 2    | (1.1%)  |
| 86  | 3    | (1.6%)  |
| 87  | 2    | (1.0%)  |
| 88  | 2    | (1.0%)  |
| 89  | 2    | (1.0%)  |
| 90  | 2    | (1.0%)  |
| 91  | 3    | (1.5%)  |
| 92  | 1    | (0.5%)  |
| 高商1 | 1    | (3.4%)  |
| 高商2 | 2    | (5.1%)  |
| 高商3 | 1    | (3.2%)  |
| 高商4 | 2    | (5.0%)  |
| 工専1 | 7    | (13.2%) |
| 工専2 | 3    | (9.4%)  |
| 工経営 | 2    | (14.3%) |

\* 醸金者数は「延べ数」です。同一人物が複数回醸金された場合はその複数回をカウントしています。

\*\* 醸金者率を算出する際の分母は、回生ごとの人数から物故者と住所不明者の人数を差し引いた数です。

\*\*\* 23回、34回、35回、36回、39回、40回、42回、72回で「ご一同様」からの醸金がありました。それについてはやむをえず1人分でカウントしています。

終身会費納付額設定表 (平成24年3月31日まで)

|        |         |     |         |      |         |
|--------|---------|-----|---------|------|---------|
| 92～86回 | 30,000円 | 72回 | 37,000円 | 58回  | 23,000円 |
| 85回    | 50,000円 | 71回 | 36,000円 | 57回  | 22,000円 |
| 84回    | 49,000円 | 70回 | 35,000円 | 56回  | 21,000円 |
| 83回    | 48,000円 | 69回 | 34,000円 | 55回  | 20,000円 |
| 82回    | 47,000円 | 68回 | 33,000円 | 54回  | 19,000円 |
| 81回    | 46,000円 | 67回 | 32,000円 | 53回  | 18,000円 |
| 80回    | 45,000円 | 66回 | 31,000円 | 52回  | 17,000円 |
| 79回    | 44,000円 | 65回 | 30,000円 | 51回  | 16,000円 |
| 78回    | 43,000円 | 64回 | 29,000円 | 50回  | 15,000円 |
| 77回    | 42,000円 | 63回 | 28,000円 | 49回  | 14,000円 |
| 76回    | 41,000円 | 62回 | 27,000円 | 48回  | 13,000円 |
| 75回    | 40,000円 | 61回 | 26,000円 | 47回  | 12,000円 |
| 74回    | 39,000円 | 60回 | 25,000円 | 46回  | 11,000円 |
| 73回    | 38,000円 | 59回 | 24,000円 | 45回～ | 10,000円 |

終身会費納付額設定表 (平成24年4月1日～平成25年3月31日まで)

|        |         |     |         |      |         |
|--------|---------|-----|---------|------|---------|
| 93～87回 | 30,000円 | 73回 | 37,000円 | 59回  | 23,000円 |
| 86回    | 50,000円 | 72回 | 36,000円 | 58回  | 22,000円 |
| 85回    | 49,000円 | 71回 | 35,000円 | 57回  | 21,000円 |
| 84回    | 48,000円 | 70回 | 34,000円 | 56回  | 20,000円 |
| 83回    | 47,000円 | 69回 | 33,000円 | 55回  | 19,000円 |
| 82回    | 46,000円 | 68回 | 32,000円 | 54回  | 18,000円 |
| 81回    | 45,000円 | 67回 | 31,000円 | 53回  | 17,000円 |
| 80回    | 44,000円 | 66回 | 30,000円 | 52回  | 16,000円 |
| 79回    | 43,000円 | 65回 | 29,000円 | 51回  | 15,000円 |
| 78回    | 42,000円 | 64回 | 28,000円 | 50回  | 14,000円 |
| 77回    | 41,000円 | 63回 | 27,000円 | 49回  | 13,000円 |
| 76回    | 40,000円 | 62回 | 26,000円 | 48回  | 12,000円 |
| 75回    | 39,000円 | 61回 | 25,000円 | 47回  | 11,000円 |
| 74回    | 38,000円 | 60回 | 24,000円 | 46回～ | 10,000円 |



## 卒業生と母校・在校生を結ぶ絆 —奨学金ファンドの新たな展開を期待して—

会長 有田和男 (31回)

### \* 母校の創立95周年・記念事業として・・・

平成24年は、母校の創立95周年の年にあたります。同窓会として、これを記念する事業の一環として、「同窓生全員に、一人・一口・一万円の拠金」を、同窓生の皆様をお願いをし、その運動の展開を24年度から実施したく存じます。皆様のご理解とご協力をここにお願い申し上げます。

まず、その設立の経緯と趣旨から、改めてご説明を申し上げます。

### \* 制度の経緯と設立趣旨・・・

甲陽学院同窓会・奨学金ファンドの制度は、その時の常務理事会と準備委員会にて検討・審議を行い、役員総会の承認を得ました。そして、ご承知の通り相当の周知期間を持って、平成17年度から制度を発足させ、同窓生の皆様に活発な募金活動を行ってきました。

そして翌18年度から母校の在校生への奨学金の支給を開始しました。

この制度開設の目的は、同窓会の会則第3条に、同窓会設立の目的として「会員相互の親睦と母校発展への寄与」が明記されています。この「母校発展への寄与」という命題に真剣に取り組み、「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」が設立されました。

勿論、甲陽学院辰馬育英会の学校経営方針に整合する形で発足させ、同窓会として母校の発展に少しでも寄与出来ればとの切なる願いが根本の理念となっています。

よって、奨学金支給対象者の選定は、学校内に設けられた「奨学金選考委員会」に全てお任せをしています。

### \* 募金活動の経過・・・

募金活動を開始して、今年度で7年目となりました。同窓生皆様のご理解とご支援により、また毎年の甲陽ファンド管理委員会の委員の皆様のご苦勞により、募金金額の総額も現時点で5,400万円を超えるに至りました。然しながら、目標とする募金総額1億円には、その道程はまだ半ばであります。

更には、昨今の厳しい経済・社会状況を考えるとき、今後の募金活動の厳しさは覚悟しなければなりません。また、ここ2・3年の拠金状況も、委員の皆様のご努力にも関わらず、年々に減少の傾向は否めません。

これの打開に、毎年の奨学金ファンド委員会では、知恵を絞り苦勞を厭わず懸命の努力を重ねてきました。この委員会に携わり、募金活動に奮闘された委員の皆様には感謝あるのみです。特に、毎年の当番学年の皆様には、相当のご苦勞をお掛けしました。委員をされた皆様には、心からの御礼を申し上げます。

### \* 奨学金の支給・・・

奨学金の支給対象者には、当初は「成績優秀な生徒」も対象者としていました。しかし近年の経済・社会状況から、就学後に何らかの家庭事情により、修学の継続が困難となる生徒の実例が出てきました。そこで、これらの生徒の救済を少しでも図りたいと考え、先ずその救済を先行させてきました。

現状は、就学中に他の奨学金や県の授業料軽減制度などを利用する生徒もあり、その家庭状況を見ながら学校側に支給対象者の選考を全て任せています。

同窓会として支給対象者枠「各学年・1名および緊急採用者」と、支給金額「年間・1人・20万円」を、原則とする取り決めがあります。今後は、一般の経済や生活状況を見ながら、支給対象者の増員と支給金額の増額など、その他の事柄も併せての検討を視野に入れて、検討を重ね実施をしていきたいと考えています。

### \* 今後の募金活動・・・

ファンド委員会による毎年の募金活動は、例年の通り真剣に取り組みます。しかし、ここ2年ほどの拠金額は減少ぎみの傾向にあり、これの挽回を図りたく考えていますが、その環境は難しいものがあります。

そこで、一つの案として提案したいのは、今年が創立95周年の記念の年になります。この記念事業として、同窓生全員に一人・一口・一万円の拠金運動を実施したいと考えています。勿論、一口に限らず何口でもお受けできれば有り難く存じます。現在、把握しています同窓生は1万人を超えています。全員の同窓生にご理解とご支援を頂ければ、目標額の1億円も現実のものとなります。

### \* お願い・・・

現在の制度は、決して完成されたものとは思っていません。次代に引き継ぎ、少しずつ補完しながら継続することが大切と考えています。

母校は、卒業生・在校生から寄付を募らないという誇りと見識を持っています。この奨学金制度は、吾々母校の発展に貢献が出来る数少ない道でもあります。

誰しも或る年齢に達すれば、必ず「母校への心の回帰」が訪れるものです。自分の人間形成の原点が、あの甲陽で過ごした時代にあることを実感するものです。

その母校への思いを、同窓生全員が「一人・一口・一万円の一灯」に託して頂ければ有り難く存じます。勿論、一口といわず、この思いにご理解とご賛同を頂ければ、二口以上も大歓迎であります。

これにより、修学を断念する事なく優秀な後輩を世の中に送り出す事が出来ます。同時に吾々の同窓会への期待と発展にも繋がるものと考えます。皆様のご理解とご賛同を心からお願い申し上げます。

## 学校だより



## 越山弘規君(高3) オランダでも銀メダル

本学院高校3年生の越山弘規君が、昨年7月にオランダのアムステルダムで開催された第52回 国際数学オリンピック (IMO) に出場し、一昨年のカザフスタン大会に続く2年連続の銀メダルを受賞しました。高校生として最後のチャンスとなったこの大会で「金」をめざしていた越山君にとっては少し悔しさの残る結果でしたが、日本代表選手の一人としての堂々たる活躍に最大限の拍手を送りたいと思います。



前列左から2人目が越山君です。

## 高等学校バレーボール部 総体近畿大会・全国私学大会 出場

卒業生の皆様には、和歌山・東京での現地応援に駆けつけていただき、熱い声援と記念の横断幕を作っていたいただき、感謝しております、誠にありがとうございました。昨年7月23～25日に和歌山県和歌山市で行われた平成23年度近畿高等学校バレーボール優勝大会に出場し、3回戦まで勝ち進みベスト16という結果に終わりました。また、8月13～16日に東京都・神奈川県で行われた第16回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会に出場し、予選グループ戦3勝1敗の戦績はグループ2位で予選突破とはなりませんでしたが、総体近畿・全国私学とも最後はインターハイ出場チームに敗れましたが、全国常連校と互角に戦える堂々とした試合でした。

次年度もさらに近畿・全国大会に向けての練習と自分達の志望校へ向けての勉強との両立を目標に頑張りたいと思います。応援よろしく願いいたします。

### 【総体近畿大会】

- 1 回戦 ○甲陽 2 - 0 箕面学園 (大阪)
- 2 回戦 ○甲陽 2 - 0 綾部 (京都)
- 3 回戦 ●甲陽 0 - 2 開智 (和歌山)

### 【全国私学大会】

- 予選リーグ戦① ○甲陽 2 - 0 豊橋中央 (愛知)
- ② ○甲陽 2 - 1 東海大付第三 (長野)
- ③ ○甲陽 2 - 1 高輪 (東京)
- ④ ●甲陽 0 - 2 札幌第一 (北海道)

## 高等学校 将棋部 全国大会出場

昨年8月4日、5日に福島県郡山市で行われた全国高等学校将棋選手権大会 (団体戦) に母校将棋部が兵庫県代表チームとして出場しました。これは市川椋君 (高3)、田中佑一君 (高2)、森田雅博君 (高1) の3人からなるチームで、惜しくも予選突破はなりませんでしたが、全国の代表47チーム中21位という立派な成績を収めました。予選の結果は次の通りです。

- 1 回戦 ○甲陽 2 - 1 福島 (福島)
- 2 回戦 ●甲陽 0 - 3 星光学院 (大阪)
- 3 回戦 ○甲陽 2 - 1 桐蔭 (和歌山)
- 4 回戦 ●甲陽 0 - 3 館林 (群馬)

## 第59回 甲陽中・関学中 交歓競技会

平成23年9月16日 (水)、母校の中学校を会場として59回目の甲関戦が開催されました。競技9種目中勝利したのは剣道、卓球、バレーボールの3種目で、総合成績は3勝6敗となり、甲陽中の3年ぶりの総合優勝はなりませんでしたが、各種目とも熱戦が展開され、大いに盛り上がった一日となりました。今年は第60回の節目となる甲関戦が関学中を会場として実施される予定です。





## 学校だより



## 同窓生講演会(高等学校)

## 人生でいちばん大切な話

作家 清涼院流水氏(74回)

昨年11月18日(金)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において同窓生講演会が行われました。講師の清涼院流水氏は1993年に甲陽学院高等学校を卒業後、京都大学経済学部で論文入試を経て入学されました(余談:筆者は小中高そして大学まで同級生でした)。在学中に作家デビューされ、以来執筆した著作はミステリー、ビジネス書などジャンルは多岐にわたり、その数は海外で翻訳されたものを含めると150冊を優に超えています。普段なかなか接する機会のない作家をされている先輩の話が聞けるとあって、当日は自由参加であったにもかかわらず、数多くの立ち見が出るほどの盛況で、教室は開始前から熱気に包まれていました。



初めにいろいろなエピソードを交えながら、自分を成長させる上でいちばん大切なことは「気づき」であり、人生はこの積み重ねであるという話をされ、その後本編へと話は移りました。前半は「僕の人生でいちばん大切な話」というテーマでご自身のこれまでの人生を紹介され、1970年以降生まれで最初に作家デビューしたこと、デビュー作の原稿枚数が史上最高記録であること、小説として日本一分厚い本を作った男であること、12ヶ月連続で新刊を刊行したこと、小説家として初めてビジネス書に参入したことなどの話に生徒たちは引き込まれていきました。大学では不真面目だったが、一人で出来ることをしようと作家の道を選び、2001年1月1日に退学届を出して「21世紀最初の京大中退者」となった、という話には会場は大いに沸きました。

後半は高校生に伝えたいメッセージと題し、受験勉強では社会に出てから通用するスキルが試されているのであり、受験は失敗しても人生は終わらない、20代まではどんな失敗も許されリカバリーできるので早く失敗すること、そして最も重要なことは将来やりたいことが決まっていなくていい人、見つからない人は「ワクワク」を感じられる方向を目指すこと、と気持ちを込めて語られました。将来受験を控え、進路選択をする生徒たちは大いに励まされ、またよりよい人生を送るためのヒントが得られたのではないかと思います。

講演の最後には質疑応答の時間が設けられましたが、10を超える質問にも一つ一つ丁寧に答えられていました。「好きな言葉は?」という質問に対する「practice makes perfectです。日々の積み重ねが大切だと思います。」という言葉が印象的でした。

予定の時間を大幅に超えたことは言うまでもありません。

最後に、ご本人から講演後のご感想をいただいておりますのでここに掲載いたします。

「講演会のために18年ぶりに母校を再訪する前、現在の高校生については、メディアで報じられる『草食系男子』のイメージしかなく、未知数でした。なにしろ、自分が卒業した後に生まれた子たちです。正直、アウェイの空気を予想して臨んだのですが、奇妙な筆名を名乗る先輩を、甲陽生たちは驚くほど好意的に迎えてくれました。ジョークには遠慮なく笑い、大切な話は、とても真剣に聴いてくれました。壇上で彼らと向きあっていると、いつしか自分が喪ってしまった若々しい活力や衝動が奔流のようにこちらへ向かって来るようで、そうした熱気を、とても頼もしく感じました。後輩たちの未来を案じていた気持ちは、安堵に変わりました。彼らなら、きっと自分の人生を、逞しく切り拓いてくれるでしょう。あの日、自分を取り巻いていた空気は、たしかに、18年前と同じ匂いがしました。この学校に通えて良かった……そんな感謝の気持ちが込み上げる、幸せな1日でした。」

(甲陽学院高等学校教諭 溝口貴浩 記)

## 同窓生講演会(中学校)

## 考古学との出会い、そして今

兵庫県立考古博物館 学習支援課長  
村上賢治氏(58回)

2011年11月17日(木)の6時間目に甲陽学院中学校の講堂において同窓会講演会が開催されました。講演して下さったのは村上賢治氏です。氏は1977年に高等学校を卒業した58回生。静岡大学人文学部人文学科に進学、同校を卒業後兵庫県教育委員会に勤務。現在は兵庫県立考古博物館で、学習支援課長としてご活躍中です。



お話は、歴史好きだった小学生時代に遡って始まりました。小学校低学年の頃に通った書道塾での歴史の本「織田信長」との偶然の出会いをきっかけに城好きな少年になっていったこと。バスケットボールに熱中した中学高校時代。本格的に考古学の世界に入っていく大学時代。とりわけ苦労した炎天下の発掘作業。職業として発掘に取り組む社会人時代。具体的に遺跡を掘るとはどんなことか?をお話してくださいました。画像を交えてのお話は、どれも興味深く具体的でわかりやすいものでした。

また後半は現在の職場である考古博物館の役割や展



学校だより



## 学校だより



示内容・イベントなどについて説明下さいました。こうした中でとりわけ中学生の生徒諸君が身近な話題として捉えたのは、やはり中学時代の高井悌三郎先生との出会いと感化された授業やテストのことでしょうか。また高校一年生の時の写真で村上氏の横にいる精悍な顔つきのクラスメートを指し「誰だか分かります?」と問いかけ、それが現在中学で生物を教える喜多先生であることが明かされると講堂はどよめきに包まれました。

「中学・高校時代に一所懸命詰め込んだ知識や友人とした何気ない経験が、実は今の職業で多いに役立っている」ということばで講演を終えられました。一見現在の職業とは何の関係もなさそうな経験も、スペシャリストとしての今の氏の仕事を支えているというお話の結びは、少しずつ自分の世界を広げ、将来についても考えようとしている中学生にとって示唆に富んだものであったと思います。(甲陽学院中学校教諭 嶋吉由喬 記)



## 進路講演会(高等学校)

## 生命科学と社会

### —あなたは自分の遺伝子を調べたいですか?

京都大学人文科学研究所 特定助教  
白井哲哉氏(78回)

2011年6月24日(金)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚室において、進路講演会を開催しました。講師の白井氏は、1997年に甲陽学院高等学校を卒業した78回生で、現在、京都大学人文科学研究所に勤務されております。



白井氏は、専門家が持っている基礎研究から得られた知見を専門外の人々にどのように役立てるか、あるいは、生命科学分野の新しい技術に対して、どのような社会的・倫理的な問題が生じるかを調査・分析しておられます。このようなお仕事をされていることもあり、医学系を目指している理系の生徒のみならず、文系の生徒まで幅広く参加者が集まり、当日は自由参加にもかかわらず、会場は超満員となりました。

講演は、はじめに「遺伝子」と「ゲノム」の違いを説明され、次にゲノムの解析の利点・欠点を具体的な例を挙げながら分かりやすく話され、さらに、ゲノムの解析の倫理的な問題へと話題を展開されました。その中で、ヒトゲノムの個人差は約0.1%であることには驚きました。また、「自分の遺伝子を調べたいですか」という問いに対して、参加した生徒の約半数が調べたいと答えていました。自分自身を知るということに対して興味がある反面、知りたくない情報まで分かってしまうという怖さがあるということを改めて実感しました。

最後に「甲陽での友達は大切に」というメッセージで締めくくられ、参加生徒全員にヒトゲノムマップを配られました。その後も、多くの生徒が白井氏を取り囲み多くの質問などをぶつけていました。

(甲陽学院高等学校教諭 橋本貴博 記)

## 音楽と展覧の会

2011年度の「音楽と展覧の会(音展)」は例年通り高等学校が9月23日の「秋分の日」、中学校が11月3日の「文化の日」に開催されました。音展は母校の今の姿を見ていただける数少ない機会です。多数の同窓生の方々のご来場をお待ちしております。なお今年2012年の高等学校の音展は、秋分の日との関係で例年より一日早く、9月22日(土)に開催することになりましたのでご注意ください。



高等学校の音展(中央ステージ)



中学校の音展(器楽合奏)



学校だより





# 告 知 板

## NEWS

### 辰馬章夫氏「旭日中綬章」受章

学校法人辰馬育英会の理事長である辰馬本家酒造株式会社代表取締役会長の辰馬章夫氏が昨年秋(平成23年11月3日)の叙勲で、酒類業振興の功勞により旭日中綬章を受章されました。ご報告いたします。辰馬章夫氏は「日本酒造組合中央会」の会長をされておられます。

### ☆「ノホテル甲子園」の優待券 ☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊15%割引」「レストラン&バー10%割引」の優待券を発行していただいています。2013年12月30日までの優待券が事務局にございますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

### ☆ —お願い— 住所変更の届け ☆

- \* 会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
- \* その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
- \* 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

### ☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した93回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、追って振込用紙同封の文書にてご案内いたします。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方(卒業時に7年分の年会費を前納)でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.3の表をご覧ください。

### ☆ ご注意！住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただいて、慎重な対処をお願いいたします。

### ☆ 理事・評議員の皆様へ ☆

- \* 理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から遠くに転居された方が目立ってきました。更に理事・評議員が選出されていない卒業回、また定員不足の卒業回も見られます。
- \* 同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方々は重要な役割を担われており、同期の方々の代表でもいられます。会則上、理事・評議員は同期の方々が適宜の方法で選出をされることになっています。よって理事・評議員が空白の卒業回、また定員不足の卒業回の方々は、同期の方々と話し合いをされて、その更新・補充を事務局までお届けをお願いします。
- \* 選出の人数は、理事は、同期(卒業回)から1名。評議員は、各クラスから1名(5名以内)です。

### ☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- \* 次号・第86号は、本年6月末頃に発行を予定しています。
- \* 「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- \* 原稿の締切日は、本年5月20日です。



## エッセー

## 人 寿 120 歳

江 隈 一 夫 (34回)

人は120歳までは生きられると言い出したのは西式健康法の提唱者の西勝造である。ほとんどの人は西式健康法という言葉を目にしたことがあると思うが、健康法そのものはあまり知られておらず、普及もしていない。その原因は、この健康法には注目すべき特徴が多々あるが、西洋医学の批判というよりあえて西洋医学を無視した点が多く、その上、仏教の影響が強く理論的とはいいがたく信仰に近いからではないかと推察している。

西勝造は1884年(明治17年)、神奈川県に生まれ、コロンビア大学でトンネル・橋梁工学を学び、日本初の東京の地下鉄を設計した技術者であって正式に医学を学んだ人ではないが、地下鉄より健康法で有名で、今もその信奉者は多い。

彼は子供の頃から原因不明の下痢と微熱に悩まされ、医者から20歳までしか寿命がないと言われ、自分自身で編み出した健康法で自身の難病を克服した人である。この健康法は素人が考えてもおかしな療法が含まれるが、信奉者には案外、お医者さんが多い。

難しい病気の治療に日々接し医学の限界を感じていたところに、たまたま自分が見放した患者がこの健康法で元気になったさまを目にしてこの健康法に惹かれた先生や、あるいは自身が西勝造と同様、難病で苦しみこの健康法で良くなった先生である。

特に阪大医学部卒業の甲田光雄は実践的で分かりやすい西式甲田健康法を出版して有名になった。この先生は大阪で開業していたが全国から連日、患者が押しかけ受診は極めて困難であったと伝えられている。

私は西式健康法の信奉者ではないが、100歳まで磯釣りを続けるのが目標であるので人壽120歳には興味がある。しかし120歳まで生きると公言していた西勝造は昭和34年に75歳で、甲田光雄は平成20年に83歳で死去し、信奉者に大きな落胆と失望を与えた。私もそのまま西式健康法を真似るつもりはなく、あくまでも私流の健康法にその一部を取り入れたいと考えているに過ぎない。

西式健康法を実践するのではないので詳しくは調べていないが、断食療法は検討に値する。私は夕食を食べず朝食と昼食の一日二食主義で、2004年2月から始めたのもう8年になるが、非常に胃腸の調子はよい。朝は2時に起床し、3時に朝食をとり、昼食は11時で、以後、一切、お茶を除き食べ物は口にせず、7時までに就眠するのが日常生活で、このサイクルを徹底的に守っている。半日絶食で約15時間、胃腸を初めとして消化器官を休めている。

体重は高校卒業時18歳で80キロ、大学卒業時22歳で100キロとなり、30歳で遂に120キロに達した。この間も球技はだめだが力を出すのが好きで運動は続けていて、学生時代は柔道、社会人になってからは自己流で重量挙げを

楽しんでしたが、それまで体重は全く気にしなかった。ところが定期検査で糖尿病の危険を指摘された。運動で肥えたのでこの時点では糖尿病の兆候はなかったが、相撲取りがよくなる事を知っていたので一大決心をして肥える運動から痩せる運動のランニングに切り替えた。今から思えばこの選択が私の人生を決めたと思う。

力は出せても走れる体ではなかったので日々のトレーニングは地獄の苦しみであったが、父から遺伝した病氣恐怖症のお陰で止められなかった。この苦しみに耐えることが出来れば何でも出来ると自分に言い聞かせて続けたが、苦しかったのは10年程だった。

その後の20年はさほど苦しくもなく楽しくもないが習慣化して続けられ、60歳で体重は18歳当時の80キロまで下がった。そして走るのは日々のささやかな楽しみとなった。その後、ダイエットもしていたが、如何に努力しても80キロ以下には金輪際下がらなかったのも、夕食をやめた。その効果はてきめんで、瞬く間に面白いほど下がり70キロになった。現在、65キロをめざしてほぼ8年になるが、また金輪際下がらない状態が再現している。

しかし、思わぬ副産物が身についていることに気がついた。どんな事態に陥っても落ち込まない性質になったようで、自分自身でも落ち込まない妙な自信があるが、おそらくこれは長年の苦行の賜物であろう。苦行といえは非常に辛いように聞こえるが、辛いのは初めだけですぐに慣れて辛くなくなるどころか楽になる。夕食抜きは別に楽しくないが気持ちはなぜか不思議と爽やかになる。もし夕方になんか少しでも何か固形物を食べると安眠が妨げられるので食べる気がしないし、慣れると空腹感はないくなる。

私の一日二食主義であるが、できるだけ小食を心がけ、最低のカロリーに努めているので自分自身で用意する。朝食は人参、カボチャ、サツマイモが主食で、揚げ蒲鉾とソーセージかハム、温泉卵と6pチーズ各1ヶが副食で、野菜ジュースと豆乳を半々に割ったものが飲み物である。デザートはみかん1つとパン半切れ。ご飯は全く食べない。昼食はワカメと糸蒟蒻でカロリーはほとんどないので、実際は一日一食に近い。ただし週2回、近くのシティプラザホテルのランチを摂り、栄養のバランスを図っている。年を取ると身体を休める昼寝をしている人は多いと思うが、胃腸も休めるべきではないだろうか。今の食事の取り方で調子は頗る良いが、いつまでもこの好調が続くとは限らないし、65キロの目標体重も実現していないので、近い将来、週に一回、まる一日の断食日を設けるつもりでいる。この断食も苦行になり、ボケ防止の心の健康にもなる。

(現ジャスダック上場「特殊電極(株)」元オーナー)

# 藤野吉平先生 逝去



1951年から1986年まで30年間母校で国語を担当された藤野吉平先生が昨年7月9日に逝去されました。享年90歳でした。謹んでご報告いたします。母校旧職員の中島博先生と中川経治先生、同窓生の林正朗氏(44回)から頂いた追悼文を掲載いたします。

## 藤野先生との思い出

旧職員 中島 博

ご逝去された藤野先生に対する哀悼の気持から一筆思い出を書きます。甲陽在任中、先生とはたびたび旅行、ドライブ、日帰りの行楽などをご一緒させていただきました。おそらく数十回に及ぶと思います。お互いにあまり窮屈なことは云わず、「こうしたらどうですか」と云えば「うん、そうしたら」とか「それはどうかな?」ぐらいのことで気安くおつき合いました。先生との思い出はあまりにも多くて、以下はそのうちの一つに過ぎません。以下「です、ます」調を省きます。

毎年先生と戸隠ヘスキーをご一緒させていただき、懐かしい思い出が頭に残っている。いつもなじみの民宿に泊まっていたが、ある年お客が混んでいて用意してくれた部屋が階段を上り詰めた三階の行き止まりの部屋だった。心配症の私は「火事のとき逃げ場がないですね」と云うと、先生「それもそうだな。でも家の外は雪が深いから窓から飛び降りても大丈夫じゃないか」。私は外を観察しようと窓に手を掛けたが凍りついて開きそうにない。しかも金網入りで道具で割っても出られるかどうか分からない。先生曰く「今年は火事が起こらないことにしようじゃないか」。先生にそう言われると「そういうことにしましょうか」と諦める気になるのが不思議だった。しかしそんなのん気なことばかりではない。クロスカントリーをやって戸隠の奥社まで来たときのこと。後ろには峨々とした岩と雪の連山がそそり立っている。私が急に無謀な冒険心を出して「靴も柔らかいものだし、そりをここにおいてすこし上へ登って景色を見ようじゃないですか?」。すると先生、「さあ、どうかな」と云いながらも二人は登り始めた。が、すぐ「これは止めたほうがいい」と先生。この忠告で引き返した。少し心配症のくせにときどき無鉄砲なことを考える私に対して、のん気さと慎重さを持つ先生とのコンビがとてもよかった。また雪が深く雪中で座ることができず、床の上まで雪に埋まったお稲荷さんの社殿に侵入し、二人で特大のにぎりめしをほほばったときの楽しかったことなど忘れられない。(二十数年昔、二人が若かった頃(?)の思い出)

お互いの住居が遠くなってご無沙汰が多くなり、亡くなられた今となっては、もっとたびたびお会いして大いに歓談したかったと悔やまれてなりません。ご逝去は私の人生でも残念なことの一つでした。もはや先生のご冥福をお祈りするばかりです。先生を短い言葉で表現すれば、心配りの人、面倒見のいい情熱家ということになるでしょう。

私への最後のお言葉は「甲陽を頼む」でした。最後まで甲

陽を愛し、また後進を気遣っておられたのだと思います。先生のご冥福をお祈りいたします。

## 藤野吉平先生を偲ぶ

旧職員 中川経治

私の甲陽学院社会科教員としての奉職期間は昭和26年4月から38年9月末までの12年半。その間、殆どの期間最も若輩だった私でも、年長の先生方は同僚として快く対応して下さいました。藤野先生もその一人である。国語の藤野先生とは香榎園と甲子園とですれ違う期間もあったが、個人的なお付き合いは途切れることがなかった。昭和34年(1959年)に結婚した私は時折中学のテニスコートの空いた時間に新妻とラケットを握ったが、先生も打ち合いに参加し楽しく過したことも思い出の一つとなっている。藤野先生も加わり旅行好きの先生数人で行った夏休みの能登旅行など忘れ難い。

当時の先生方が全て職場を去られてやがて2000年、元気なうちに是非会いませんかということで中島博先生がご所望の伊豆下田までの旅行が実現し、藤野先生は若干足が不自由のようだったが遠路頑張って出て来られた。私は自宅が横浜なので三島駅まで車をとばし両先生を迎え、中島先生と交代で運転し中伊豆をひたすら南下した。その後遂に再開は果たせなかったが、藤野先生からは毎年大きなペン書き、時には筆書きの書状が届き、中に学生時代の作とおぼしき森鷗外についての論考なども混じっていた。

晩年体調を崩された先生も44回卒業生の会(藤吉会)には頑張っておられたようで、その間の経緯は私もメールを通じ幹事の林正朗君から克明に伺い、師弟の情に大きな感銘を受けたわけである。改めて藤野先生の御冥福をお祈り申し上げます。

## 藤野先生の思い出

藤吉会幹事 林 正朗(44回)

私も昭和32年入学A組の担任であり、その後6年間、学年の国語の教師としてお世話いただいた藤野吉平先生が昨年7月9日に亡くなられました。享年90歳でした。

先生に初めてお目にかかってから約55年、先生は変わらぬ温厚さを持ち続けられ、老齢に入った我々にもお会いすると何かほっとさせていただくものを感じさせてくれました。

藤吉会はその先生をしたう中学A組のクラス会です。これまで毎年1、2回開催し、いつも先生と10数名の友人が出てきてくれました。今ではすっかり頭が薄くなり、皺の増えたわれわれに比べて、先生はいつまでも容姿がお若いので、クラス会に遅れてきた者が先生を探せず、逆に先生に呼ばれて気がつくようなこともありました。会の恒例として毎回先生はメモや資料を持参して小スピーチを張りのある声でしてくださいました。主に文学や歴史に関することが多かったと思いますが、これを聞くのもクラス会の楽しみの一つでした。

思い出すと、中学高校時代を通して先生が大声をだされたり、怒ったりされるのを見たことは先ずありません。でも一度だけ中学の講堂で何かの式が始まる前に私と伊藤君がふざ



卜  
報

(平成24年1月31日現在)

事務局では左記会員の逝去の報に接しました  
謹んで哀悼の意を表します。

けていて、先生に、そこにしばらく立っておれ、と小さな声で叱責された覚えがあります。もちろん式の始まる前には無事放免されましたが。懐かしい思い出です。

そんな先生のクラスなのでまとまりがよく、これまで藤吉会が続けてこられたのだと思います。もちろんこれからずっと続けていきます。

棺の中の先生は、本当に穏やかな顔でした。亡くられる前の新年藤吉会で有志がお見舞いに伺ったとき、車いすに座られてゆっくりとではありましたが、変わらぬはっきりとした声で話されていたのに、突然亡くなられ、本当に驚き、残念の極みです。

先生、長いあいだありがとうございました。これから  
もわれわれをずっと見守ってください。

|         |         |         |           |         |         |          |          |         |       |           |           |
|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|----------|----------|---------|-------|-----------|-----------|
| 森田      | 村田      | 一丸      | 佐野        | 石村      | 平林      | 高石       | 亀山       | 松田      | 竹田    | 渡邊        | 西谷        |
| 泰氏      | 信義氏     | 幸治氏     | 淳一氏       | 清氏      | 政次氏     | 清氏       | 正次氏      | 進氏      | 修氏    | 正太氏       | 安治氏       |
| (20回)   | (20回)   | (20回)   | (20回)     | (18回)   | (17回)   | (17回)    | (16回)    | (16回)   | (15回) | (12回)     | (12回)     |
| 11年5月7日 | 11年3月8日 | 11年7月9日 | 11年10月29日 | 04年7月1日 | 09年8月1日 | 11年1月11日 | 11年4月23日 | 10年7月1日 | 09年   | 11年12月19日 | 05年11月12日 |

|     |      |       |      |     |     |
|-----|------|-------|------|-----|-----|
| 石丸  | 孝氏   | (21回) | 11年  | 8月  | 17日 |
| 建内  | 道宏氏  | (21回) | 11年  | 6月  | 20日 |
| 本莊  | 秀雄氏  | (22回) | 10年  | 10月 | 25日 |
| 岸本  | 保明氏  | (23回) | 10年  | 10月 | 12日 |
| 山村  | 謙吉氏  | (23回) | 11年  | 8月  | 8日  |
| 奥   | 喬二郎氏 | (24回) | '91年 | 7月  | 19日 |
| 山縣  | 康成氏  | (24回) | 11年  | 11月 | 2日  |
| 五十嵐 | 喜芳氏  | (25回) | 11年  | 9月  | 23日 |
| 中田  | 惠之氏  | (25回) | 11年  | 6月  | 26日 |
| 勝部  | 重一郎氏 | (28回) | 10年  | 7月  | 4日  |
| 三崎  | 治郎氏  | (28回) | 11年  | 8月  | 27日 |
| 福本  | 坦氏   | (32回) | 11年  | 3月  | 27日 |
| 花房  | 幸夫氏  | (32回) | 11年  | 11月 | 17日 |
| 油治  | 満秋氏  | (32回) | 10年  | 9月  | 5日  |
| 城島  | 靖氏   | (33回) | 11年  | 6月  | 25日 |
| 野田  | 実氏   | (33回) | 10年  | 12月 | 14日 |
| 辰馬  | 恒夫氏  | (34回) | 11年  | 4月  | 18日 |
| 鳥居  | 則成氏  | (35回) | 11年  | 9月  | 2日  |
| 平井  | 肇氏   | (36回) | 11年  | 9月  | 8日  |
| 木下  | 照雄氏  | (38回) | 09年  | 9月  | 28日 |
| 前田  | 直孝氏  | (39回) | 11年  | 9月  | 19日 |
| 山田  | 裕善氏  | (40回) | 11年  | 9月  | 26日 |
| 生村  | 吾郎氏  | (41回) | 11年  | 4月  | 7日  |
| 峰尾  | 彦一郎氏 | (41回) | 11年  | 3月  | 27日 |
| 吉村  | 恂氏   | (41回) | 11年  | 6月  | 26日 |
| 岡本  | 正几氏  | (46回) | 09年  | 11月 | 20日 |
| 永井  | 卓也氏  | (46回) | 02年  | 1月  | 7日  |
| 耕田  | 秀樹氏  | (46回) | 03年  | 2月  | 9日  |
| 與田  | 規矩男氏 | (46回) | 11年  | 9月  | 21日 |
| 苗村  | 康次氏  | (48回) | 11年  | 9月  | 9日  |
| 若池  | 豊裕氏  | (48回) | 11年  | 6月  | 17日 |
| 大沢  | 誠司氏  | (59回) | 05年  |     |     |
| 松井  | 美治氏  | (高商3) | 11年  | 5月  | 13日 |
| 今崎  | 昇二氏  | (高商4) | 10年  | 10月 | 2日  |
| 平井  | 増一氏  | (高商4) | 11年  | 7月  | 10日 |
| 山田  | 正俊氏  | (工専1) | 09年  | 11月 | 23日 |
| 今崎  | 昇二氏  | (工専1) | 10年  | 10月 | 2日  |

## ■ あて名ラベルの記号の見方

既に終身会費や年会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振込用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成24年1月31日現在の同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H20年度 ◀

① 枠の上には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

② 枠内には、順に平成元年度、2年度、…23年度の年会費のお支払い状況を示しています。

### ▼記号の意味

|   |               |   |              |   |           |
|---|---------------|---|--------------|---|-----------|
| 1 | 当該年度分の年会費を納入済 | 終 | 当該年度に終身会費を納入 | ♪ | 甲陽学院に在籍   |
| 0 | 〃 未納          |   |              | 卒 | その年の3月に卒業 |

従いまして、枠内に含まれる0の個数 × 年会費が、未納の年会費となります。  
同封の振り込み用紙にてお支払い下さい。

★H元年以降にご卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。

次の2つの例をご参照下さい。

|           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ | ♪ ♪ ♪ 卒 1 | 1 1 1 1 1 | 0 0 0 0 0 |
| 0 0 0     |           |           |           |

H16以降は未納です。  
未納分をお納め下さい。

|           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ | 卒 1 1 1 1 |
| 1 1 1     |           |           |           |

H16年3月にご卒業、さらに1年分の年会費を頂いたので、H23年度まで納付しておられます。

◎尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、  
そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

# 会員だより

## 21回 橘組 クラス会

平成23年11月2日(水曜日)第39回目の橘会を開催しました。会場は今回も昨年と同様にJR芦屋駅前のホテル『竹園』でした。定刻前に参加者5名集合し、事務的な報告の後乾杯をして、それぞれの近況などを語りながら楽しく会食をしました。



写真は後列左から 樋口達彦・一色皓・森岡甲子男  
前列左から 林信男・井本幸雄の5名です。

次の40回目の橘会は、平成24年11月2日(金曜日)、場所は本年同様ホテル『竹園』と決定し予約しました。1年先のことですが、御予定をお願いします。幹事は林信男がさせていただきます。宜しくお願い致します。

(林信男 記)

## 24回 桜組

昨年11月15日、ホテルノボテルの旬彩にて、クラス会を行いましたところ、意外にみんな頑張って集ってくれました。

年が年になりましたので、心配していましたが、案外元気そうなみんななので半ば安心致しました。話は大体身体のこと、お孫のことが多く仕方ありません。兎に角、頑張ろうと云う事です。



写真は左から、山根、小林、西垣、呉竹、そして右奥から、浅田、小原、呉竹、植田、竹内(以上9名です)。

## 25回 桜組・桃組 合同クラス会

平成23年度、桜組・桃組合同クラス会を10月6日(木)に大阪・北新地パーティーパークで開催しました。

本年は、桜組3名、桃組5名、計8名の出席でありました。遠隔地からの出席は、桜組では小田さんが山形県鶴岡市から、桃組では馬場さんが香川県高松市から来られました。

此の合同クラス会は、一昨年から引続いて毎年開催し、本年は3回目となりました。2回以上出席の方が多く、お互いに顔馴染みとなり、又、近況報告等で面白い話が出たりして、大いに打ち溶けて歓談し、あっという間に時間が過ぎて仕舞いました。

最後は、恒例の校歌と応援歌の大合唱で締め括り、来年の再開を約束して散会しました。

今回の出席者、桜組：小田圭昭、錦織達郎、安達正昭、桃組：池内龍雄、大塚雅也、馬場英三、行友正裕、松原市郎の8名でありました。

(安達 記)



## 38回 同窓会

昨年、11月13日、幸い好天にも恵まれ、「第38回生同窓会」がJR尼崎駅隣接のホテル・ホップイン・アミングにて開催され、北海道をはじめとする遠来からの参加者を含め39名が元気な姿を見せ、盛会裡にお開きとなりましたことを謹んでご報告いたします。

91歳という高齢にも関わらずご臨席いただいた宮本茂先生から、「第38回生には格別の思いを持つ。それは心優しさだ。」という身に余るご祝辞を頂戴しました。また、中島博先生からは「地球の歳差運動とはどんなこと？」と題して小型地球儀を前にして、太陽の周りを地球がなぜ自らの体を傾けながら回転するかについて分かり易く解説いただきました。

西村亮一君は、演題「右脳と左脳」の中で「朝起きた直後に、右脳から最も活発にアルファ波が出る。そのため朝に決めごとを済ます事を習いとして成功している。これからの時代は、益々右脳の出番だろう」などとユーモアを交えた巧みな話術での氏の語りに一同聞き入りました。

5つのテーブルに分かれて席に着き、やがて配膳が始まる。時川君持参の自家製白・赤ワインは瞬く間に



空になった。食べながら飲みながら、和気あいの中、自薦他薦入れて14名が交互に近況報告し、会場の雰囲気の大いに盛り上げてくれました。

今年春の叙勲で、西村亮一君が旭日小綬章(保健衛生功労)、時川和夫君が瑞宝小綬章(北海道開発行政事務功労)を受章されたこと、羽田英彦君の西宮市民文化賞受賞が紹介されました。

会場の一隅には、日本画(江寄君)、大人のぬりえ(中村誠君)、洋画(羽田君)、写真(堀口君)の作品や高校・中学卒業記念写真拡大版が展示されました。

次期代表幹事に濱根君、幹事として鶴田、中村誠、七岡、羽田、久松、堀口各君が紹介され、最後に、甲陽学院校歌を声高らかに歌い、2年後の再開を約して散会しました。(西田武史)



## 39回 東西合同合宿同窓会

◇日 時：平成23年 8 月 7 日～ 8 日

◇場 所：第 1 日：関西大学六甲山荘  
第 2 日：甲陽学院高等学校

◇出席者：中島先生、井上(修)、板坂、上田、江隈、小幡、大西、奥村、梯、今川、川地、河守、木下、小林、田中、田村、辻田、坪内、泥、中川、中島、永滝、西川、西牧、布谷、直場、橋寺、樋口、福田、北条、松木(繁)、松崎、三木、森、森内、山本、吉川(37名)

前回、蒲郡で開催された古稀記念合同同窓会から 2 年ぶりの開催となりました。

第 1 日は15:30に現地集合し、16:00から中島博先生と木下俊彦君の講演で始まりました。中島先生からは、終戦当時、阪大理学部伏見研究室において素粒子論に関する研究をされていた頃、広島に原爆が投下されたときの貴重な体験談が話され、木下君からは、「東日本大震災と福島原発事故 What's wrong with us?」と題して、マスコミでは報道されていない裏の視点から、現状の問題点と今後の課題が話され、一同感銘を受けました。その後、懇親会、学院歌と高校校歌の斉唱、記念撮影、六甲ガーデンテラスからの100万\$の夜景の展望、深夜までの2次会と続き、合宿同窓会でないと味わえない盛り沢山の催しとなりました。

第 2 日は、自由行動によって六甲山頂から母校へ移動し、13:30分に集合しました。母校教諭で57回生の今西昭先生には夏休み中にもかかわらず高校までお出でいただき、母校の講堂から始まり、体育館、教室、美術室、音楽室まで、ご案内いただきました。講堂の舞台中央には、甲子園の旧校舎から移設した唯一の記念品として、彫刻のほどこされた木製の扉がはめ込まれていて、一同懐かしい想いにひたって記念撮影を行いました。

掲載の写真は、両日の集合写真です。

今回の幹事はB組が担当し、井上(修)幹事長のもと、板坂、田村、北条が幹事を務めました。今回の39回生東西合同同窓会は、輪番制により2年後にA組が担当することになりました。

(田村坦之 記)



第1日 六甲山荘にて



第2日 母校講堂にて

### ■お知らせ

今年の夏の会員総会は8月25日(土)にノボテル甲子園で開催いたします。本号の16頁をご覧ください。詳しい内容については次号86号の甲陽だよりでお知らせいたします。

なお、投稿をご予定の方は、次号が6月末に発行予定のため、5月20日までに原稿を事務局へお送りくださるようお願いいたします。(会報編集委員会)

**46回 同窓会**

日 時：平成24年 1月 7日 午後 3時～ 7時30分

場 所：大阪弥生会館

ご臨席：中島 博先生

出席者：池田 正明、石川 明彦、井手本克郎、  
井上 良二、入谷 泰生、音村圭一郎、  
柏木 康雄、伊藤 芳晴、神田 剛、  
暮石 正義、阪上 耕三、重田 仁志、  
柴田 敏郎、杉山 英夫、高瀬 孔平、  
東野 治之、土肥 正裕、富田 勲、  
長田 明彦、中野 為夫、中原 洋一、  
西村 公男、萩森 健治、前川 卓瑛、  
松尾 起志、松原 茂夫、水口 直次、  
森 純也、八木 憲治、山根 修、  
山野 章、山本 明、由宇 芳才、  
吉田 靖夫、鷺尾 素明、和田 省一 (36名)

14ヵ月ぶりの46回の同窓会は、與田君への黙祷後、褒章受章者の卓話から始まりました。昨年藍綬褒章を受章した入谷君の「クルーズ」の話と紹介、そして一昨年に紫綬褒章を受章しさらに日本学士院会員になった東野君の修業時代と本簡の話。聞き入るうちに、あっという間に1時間強を経過、二人への記念に45回田中和人さん作の大皿(波濤文鉢・鈎窯釉鉢)を贈呈しました。

その後、室を変えて食事、歓談、各自の現状報告…中島先生からは、君達はまだまだこれからと励ましのお言葉…ここでも3時間は瞬く間に過ぎて、記念撮影、学院歌斉唱で散会し、三三五五の2次会となりました。



なお、昨年暮れ12月26日、46回東京の集いが開催されました。出席者は、明石雅史、井口和之、川西宏、川村俊郎、近藤宏、桜井雅和、清水範夫、園田成和、高瀬和彦、高田弘明、津田真人、則岡節雄、船戸敬介、松木幹雄、矢野俊一、山口俊明の16名。旧交が温められました。(西村公男 記)

**51回 C組同窓会**

平成23年12月30日 J R尼崎駅前にて51回C組同窓会を開催しました。中島博先生(中央)をはじめとして21名の元生徒が結集、なごやかなひとときを過ごすことができました。中島博先生のさらなる御健康をお祈りしつつ、1年後の再開を約して散会しました。幹事は金田氏でした。(51回森本)

**62回 同窓会**

去る1月2日にノボテル甲子園において62回卒の同窓会を行い、天候にも恵まれ、飛び入りを含め32名の参加を得ることができました。担任であった山下正昭先生にもご出席頂き、母校の現状等をお話いただきました。今回は久しぶりやおそらく初めてという参加者も少なからずあり、それぞれに現状や思い出を披露し、それに対して先生からは時に厳しいご指摘??も頂きながら、終始笑いの絶えない楽しい会になりました。時間は瞬く間に経過しましたが、引き続いての二次会にも多くが参加し、再開を約束して散会しました。

次回同窓会は、3年後を予定していますが、故中島久先生によると、「50歳を過ぎると旧友に急に会いたくなるもの」ということで、特にこれまであまり参加していない方の参加を期待しています。尚、今後、ミニ同窓会の案内や様々な連絡をメーリングリスト(現在、約150名の登録があります)にて行いたいと考えており、未だメールアドレスを登録していない方、もしくは今回の同窓会の案内メールが届いていない方は、koyo@watase.infoまで連絡をお願いします。また、連絡方法の複数確保の観点からFacebookの活用を試験的に行っています(現在25名が日常的に繋がっています)。そちらへのアクセスも是非お願いします(渡瀬)





## 第59回 甲陽灘サッカー定期戦

2011年 9 月11日灘高等学校グラウンドにおいて、第59回甲陽灘サッカー定期戦がおこなわれました。本年度は本来甲陽学院グラウンドで開催すべき順番の年でしたが、灘高等学校グラウンドが人工芝グラウンドに改修されたことを祝う意味もかねて、今年も灘高等学校での開催となりました。9時開会式の後、中学校の試合は3-0で甲陽学院の勝利、また高校学校の試合は2-0で甲陽学院が勝利しました。一同、人工芝の感触を楽しめたようでした。その後、OB戦がおこなわれましたが、甲陽、灘いずれも多数のOBの皆様の御参加をいただき、なごやかな雰囲気の中に終了しました。また、OB戦終了後、近くの会場にて灘、甲陽合同でのOB会もおこなわれ、さらに親睦を深めることができました。

来年度は、甲陽学院会場にて、第60回の記念すべき大会が行われます。会場については、現在芝生の会場を交渉中ですが、日時は本年 9 月 9 日(日)と決定しました。OBの皆様多数の御参加、御来場をお待ち申し上げます。

(後日連絡します。)



## サッカー部 初蹴り会

新春の恒例行事、初蹴り会は平成24年 1 月 3 日10時より甲陽学院高校グラウンドにておこなわれました。OB会長中村貞三氏による記念撮影もはさんで、最初は現役選手チーム対OBチーム、続いてOB対OBなど多数の試合がおこなわれました。本年は暖かい日差しにもめぐまれ、さわやかな気分と思う存分サッカーを楽しむことができました。

来年もまた同様の日時にて開催を予定しております。個々にお知らせはいたしません、来年もまた奮って御参加ください。



## 第 9 回同窓会ゴルフ 報告

10月16日(日)「武庫の台ゴルフコース」で第9回同窓会ゴルフコンペが9組34名参加の下行われました。

当日は天候にも恵まれ、湯川英彦氏(54回関電執行役員)から三田牛1kg、さくらクレパス(株)から画材、宮崎恒彰氏よりタイガースグッズ・色紙多数、クラブよりキャディバッグ、手袋など多くの賞品の提供がありました。

優勝は喜安洋三君(60回) ベスグロは83の大山司君(56回)でした。

これまでの優勝者は次の通りです。1回小野晃(29回)、2回小野晃、3回篠田勝郎(40)、4回喜安洋三(60)、5回篠田勝郎、6回大山司(56)、7回水野博好(61)、8回は庭屋和夫(59)、9回喜安洋三の各氏。

尚、医師の綿谷卓氏(60)より土曜開催は参加出来ない医師が多いので、秋は日曜にして・・との要望があり次回ご相談致します。

中村貞三(35)記

## 次回第10回同窓会コンペご案内

4月28日(土)「武庫の台ゴルフコース」

※8時集合 8:30アウト・イン分かれてスタート

※プレーフィー ¥15,000

(昼食代含む)

御寄贈頂ける品物があれば大歓迎です。

※懇親会費 ¥3,500

10組40名満ち次第締め切り

参加申し込みは下記の何れかへ締め切り 3 月末日

中村貞三(35回) TEL&FAX 072-777-1009

Eメール teisan@d4.dion.ne.jp

携帯メール teisan51257767@docomo.ne.jp



## 夏の会員総会

# 甲陽学院創立95周年・同窓会発足90周年 記念同窓会会員総会に集まろう

8月25日(土) 11時～15時 受付10時～ 於ノボテル甲子園

毎年、夏来れば思い出す、同窓会の最大の恒例行事の会員総会は、今年も8月第4土曜に甲陽創学の地、甲子園のノボテル甲子園で開催します。

「明朗・澆漓・無邪気」を校風とする甲陽は、大正6年、伊賀駒吉郎先生により創立され、辰馬本家酒造の辰馬吉左衛門13代当主が私財を投じ多くのすぐれた甲陽健児を育てて来ました。吉左衛門翁は中国春秋時代(BC7世紀)の齊の名宰相管仲の言をひいて「一年の計は穀を植うるにあり、十年の計は樹を植うるにあり、百年の計は人を植うるにあり」とその志を表された。

甲陽学院は本年めでたく95周年を迎え、併せて同窓会は90周年を迎え百年の計に一步近づきました。

いま盛りだくさんの周年記念企画を作成中で、詳細は甲陽だより次号～HPで乞うご期待ですが、今年の夏は2度と来ないこの記念の会員総会に、先輩も同期も後輩も、家族、友人、知人、ガールフレンドを誘い合わせて奮って参加集結しようではありませんか。

今年は3部構成で行うため、開始時間は11時となりますのでご注意ください。

**今年のゲストは甲陽らしからぬ  
アートとミュージックの道を極めた異能の  
OBです。**

## ＜嶋本昭三氏プロフィール＞

1928年大阪に生れ西宮で育つ。瓦木小学校から中学に入学。在校したのは戦時中で学校の横を電車が始終通ってうるさかったそうだ。写真の様に描くと思っていた絵が自由に描くものと知り感激して絵の道へ。1944年関西学院大学予科、1947年本科社会学部哲学科入学。

絵は自由なものとして教えてくれた遠縁の関西学院大学教授の娘さんから吉原治良氏を紹介され、氏から「誰もやった事がない絵を描いたら弟子にしてやる」といわれて現代アートの道へ。1954年戦後日本の現代美術を代表する「具体美術協会」の創立メンバーとなる。言葉には反対の意味も含まれると吉原氏が言われたので、抽象を描くグループだが「具体」と言ったら採用となり「具体」という名の提案者となった。

代表作に空き瓶に絵具を詰めヘリコプターからペイントを落とすビン投げがある。1988年、米国MOCA「戦後の世界展」に世界の四大アーティストの一人に選ばれる。パリ・ボンビドーセンター、ロンドン・テートモダン、ニューヨーク・グッゲンハイム各美術館に作品が収蔵されている。イタリアから2度平和賞を受賞。

生誕100年を記念し日本初の回顧展が展開された現代アートの元祖で、オークションの価格がピカソを越えたジャクソン・ポロックあてに、1956年に嶋本さんが送った手紙と具体の雑誌が発見されたのをきっかけに2009年、現存するポロックの家で具体展が開かれた。

## ＜納浩一氏プロフィール＞

1960年生れ大阪育ち、愛日小学校から中学に入学。中1の担任は体育の静先生だった。ビートルズやローリングストーンズの影響でロック、ジャズに傾倒、音楽展にバンドを組んで出演した。スポーツはサッカー部で活躍、今もクラブチームでプレイしている。高2までは甲子園の旧校舎に通った世代である。1980年に京都大学に入学して機械工学を学んだが音楽への思い止みがたく、卒業後米国マサチューセッツ州ボストンのバークリー音楽大学に留学した。1985、86年度バークリー・エディ・ゴメス・アワードを受賞。1987年同大学作曲編曲科を卒業した。

帰国後はジャズミュージシャンとしてライブハウスやスタジオセッションで活動。渡辺貞夫グループのレギュラー・ベーシストとして全国のライブハウスやモントールジャズフェスティバルを初め、海外のジャズフェスティバルに多数出演。また森山良子、桑田佳祐、石井竜也、平井堅、チャカ、マンディ・満ちる、Birdなどのポップス系ミュージシャンのレコーディングやツアーにも参加し幅広い活動をしている。

2001年よりユニット「EQ」でアルバムをリリースするとともに、ライブ活動を積極的に展開する一方、洗足学園音楽大学で音楽科ジャズコースのベース講師として後輩の指導に当たっている。リーダーアルバム「三色の虹」、布川俊樹との共同アルバム「DuoRama」「DuoRama2」をリリース。「ジャズスタンダード」などの教則DVDを制作しジャズスタンダード曲集「ジャズスタンダード・バイブル」を出版し好評を博している。

## 第1部 式典と映像と講演

宝塚造形芸術大学名誉教授  
京都教育大学名誉教授  
現代アーティスト 嶋本昭三氏(24回)

「世界でだれもやった事のない絵を描く」を語る

## 第2部 ベースとギターによるジャズ ライブ演奏とトーク

エレクトリック&アコースティック ベーシスト  
納 浩一氏(60回)

「ジャズに魅せられて」

## 第3部 懇親パーティ

記念の会員総会なので楽しい企画、記念品を計画中です。今回の主役となるホームカミング学年は43回(卒業50年)、58回(卒業35年)、68回(卒業25年)です。舞台登壇と記念品を用意していますのでぜひご参加ください。

例年の通り総会司会は真下貴氏(69回)ゲストインタビューは河内厚郎氏(52回)です。

旧交を温め、学年や世代を越えて交流して夏のひとときを大いに楽しみましょう。

